

●京都府交響プロジェクト報告書提出 4月8日

2020年度の交響プロジェクトの事業報告書を京都府山城振興局への提出期日9日の前日の8日に提出しました。871号ではイベント7つを紹介しました。報告内容は①実績報告書②チェックリスト③事業報告書④収支決算書⑤支出内訳兼領収書一覧表⑥団体運営力向上活動計画⑦領収書の写し⑧活動のわかる資料などです。

特に今回は活動のわかる資料に木津川生育植物写真集が加わったので膨大なものになり、領収書の枚数は220枚のファイル80ページもの2冊になりました。

宇治の広域振興局では「活動や成果は素晴らしいものが積み上げられています。しっかり取り組んでいただいている」と高い評価をいただきました。新年度にも出来たら他団体と連携するなど新しい団体などつながって展開してほしいと期待をお話いただきました。

その後月曜日には提出資料を点検の結果、記入不備のところや記載不備について記載訂正箇所が多く発見されて指摘をいただきました。こうした記載不備を訂正して再提出することになり、交付金総額は300万円を承認いただくためには管理の苦労が必要です。次年度からは期末清算ではなくてイベントが終了した段階で即清算しておく随分と作業が軽減されるものです。一時も早くそうなるよう全役員が一致協力いただけるように希望するところです。

●炭焼き釜開き 4月17日

以前に報告しましたが、今年二度目の着火に挑戦しましたが、完全に成功したことにはならず、中途半端な出来上がりであるとの報告です。しかし失敗というほどのことでもなく、かなり炭には出来上がっているようです。いずれにしても簡単に学びとれるものでなく経験が必要だと思います。失敗の繰り返しをして徐々に技術力を身につけていくものだと思います。チャレンジいただいた皆様、大変にご苦労様です。必ず素晴らしい炭焼きがきっとできるようになると思います。あきらめずにチャレンジを続けてください。

●新年度役員体制 留任理事4名が会議を開催

三月末に全理事の皆様間14名に新年度は留任していただきたいと依頼文をお届けしましたところ8名の方々から、新年度は勇退を希望しますと返答をいただきました。残り7名のうち態度不明者があり、きびしい状況にいたっております。しかし、留任希望者が4名おいでになり、9日に会合を持っていただきました。積極的に話し合われ、ずいぶんと論議の後に結論に至っていただきました。たいへんうれしいことです。積極的に新理事候補者の氏名も上げて体制を組もうと熱意が示されました。これから多くの皆様に就任のお願いに出向いていただきますが、その折には快く引き受けをいただきますようお願いいたします。

新年度ははまず結成25周年となる年であります。そして京都大学との共同事業の中聖牛5基の設置が控えています。同時に竹蛇籠や中聖牛などについて全国の皆さんをお迎えする計画進行中であり、大きなイベントが待ち受けています。そして何よりもこれまでは、自己資金がない中での事業展開推進のために一時借金を個人的に立て替えしなければならない財政運営からここを克服できるようになり、大変大きな前進が可能になりました。この改善で随分運営には気楽になったの運営が可能になりました。新役員に期待したいと思います。

●春の野草を味わう会（野草を摘む会）4月10日

里山の会恒例の「春の野草を味わう会」ですが、今年は新型コロナ感染防止のため、みんなで食事することができませんので里山農園で食べられる野草を摘み、各ご家庭で料理をして味わっていただく「野草を摘む会」に変更して行いました。

参加者は、農園の自然の環境に興味を持たれ、いつも野菜作りや、里山の遊び、自然とのふれあいを楽しんでおられる方、3家族大人3名子供5名が来られました。

山下さんが、タンポポやアレチマツヨイなどの茎をストロー替わりにしてシャボン玉遊びを子供たちに指導してくださり、子供たちの中で大いに盛り上がっていました。

もっとたくさんの方においでいただきたかったのですが、最近のコロナ急拡大の状況の中、これが精一杯の取り組みだったと思います。

例年は、ヨモギ、セリ、カラスノエンドウ、スイバ、ノイバラ、ハルジオン、タンポポ、ヨメナなどを天ぷらにして、ウシハコベ、ウルイ、ヤブカンゾウなどをおしたし、あえ物などにして味わうのですが、今年は本当に残念でした。来年に期待したいと思います。



●ヤマトサンショウウオ幼生化が始まる

2007年にヤマトサンショウウオの6対の卵囊が発見されてから今年は34対と多く産み付けられ成長が期待されています。その卵囊の中で随分と大きくなって外に生まれ出る季節になってきました。4月13日の観察では幼生として生まれ出てきていました。このまま大きく成長してほしいと強く願っています。34対の卵囊が確認されているのですから3400匹の幼生が生まれます。しかし

陸上生活ができるのはほんのわずかで、共食いが最も大きな原因で、少なくなるそうです。大変厳しい現実が待っているらしいですね。



●竹蛇籠への工夫 シリー7回

この1回目の竹蛇籠の製作は、大量の人海戦術で、2日間で蛇籠18本を一挙に製作するとして準備をしたものです。しかし参加者は、全くの素人なので気力豊かな皆さんが全力を発揮いただいても、18本の巨大な竹蛇籠を製作できず、15本が精一杯のところでした。残りの1基の3本は箱型に形式を変えて合計6カ所の設置を完成させました。

その後1年のち、中聖牛の話が持ち上がり挑戦することになりました。これも自力ではとても作り上げることは技術的に未熟なので相当苦心をしました。前回の苦勞と経験を生かしてとなりましたが、前回は原小組さんに おんぶにだっこ での取り組みだったものでしたから、再度挑戦しようと思っても記憶が思い出せず、見様見真似でそれらしい蛇籠を8月から10月末までかかって、やっとのことで製作できました。27本の蛇籠に使用する竹を用意して、全部最初に4分割に割って、鎌で4.5cmの幅に整えました。8mの長さなのでそれはそれは、想像を超えるものすごい作業の連続でした。